

令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(総務部)	記載者 柴田 真弓
重点目標	1. 保護者、同窓会、地域社会の理解を得ながら本校教育活動への協力体制の強化に努める。 2. 災害や事故などの緊急時における危機管理体制の強化に努める。 3. 他分掌や学年との連携を図り、諸行事や各種事業が円滑に行われるように努める。		
具体的な計画	1. むつみ会、あさひ会、あげまき会との連絡調整を行い、行事等への参加・協力体制を強化する。 2. 学校安全計画や防災避難訓練等、安全計画の内容を見直し、危機管理への具体的な対応を整備する。 3. 各種事業が組織的に行われるよう分掌内や他分掌、学年部との連絡調整を図り協力体制を築く。 4. むつみ会役員・評議員と連携を取り、PTA活動のあり方を工夫して各種事業に取り組む。		
具体的な取組状況	前期評価	・むつみ会総会前に授業参観を実施した。全教室に授業の内容を掲示し、より参観しやすい環境整備を行ったが参加者は少なかった。また総会の出席者100人を割っている。 ・北高祭直前に、放送にて不審者対応と避難場所についての確認を行い、不特定多数の人間の出入りへの注意喚起を行った。 ・職員室(ホワイトボード)の行事黒板・予定表・職員連絡シートをやめて、スクールウエアに一本化した。	
	後期評価	・10月 秋の交通安全指導に、高P連の登校時一声運動・マナーアップ運動としてむつみ会から23名(昨年26名)の評議員から参加いただいた。 ・冬季休業前後の儀式を、生徒の体調管理を最優先し、リモートで実施した。 ・職員会議をペーパーレスで実施した。 ・むつみ会報2回目について、すぐーるにて掲載することにした。 ・保護者アンケートについて「項目14 むつみ会活動」に対する評価は3.70(昨年度3.50)と微増した。	
今年度の課題	・PTA総会への参加数が100名を切っており、対策を講じる必要がある。 ・保護者アンケートにて「学校生活の様子を保護者に伝えているか」の評価(3.41)昨年度(3.32)より微増とはいえ低い。 ・令和8年度東北高P連秋田大会があるため準備する必要がある。(秋田北高からは16人要請あり)	今後の改善策	・総会を土曜日に設定していたが、平日開催を実施する。また情報発信をすぐーるで計画的に行い、重要な情報が埋没しないように配慮する。 ・第2回評議委員会にて周知し、協力を仰ぐ。
関係者評価	・総会出席者確保は、特別講演などを盛り込むなどの工夫を考えてもよい。 ・業務が多岐にわたるため難儀をされていると思う。PTA総会の開催日変更が参加者増に繋がることを期待する。 ・学校からの情報をどのような形で保護者に発信していくか工夫してほしい。仕事の関係でPTAに参加できない保護者も多いと思う。 ・北高生、保護者、地域社会など多方面に働きかけ、生徒の安全、教育活動を支えていると思う。今ではクマ対策まであり、大変だと思いますが頑張ってください。 ・本来の生徒への指導と共に激務をこなしてもらい頭が下がる。		評価
			A

令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(教務部)	記載者 小島宏樹	
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程が効果的に運用されているかを検証する。</li> <li>2 教務諸規定の適正な運用を図る。</li> <li>3 授業改善に取り組み、生徒の学力向上を図る。</li> </ol>			
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程が、生徒の進路志望達成に向けて学力の充実を図るものになっているかを検証する。</li> <li>2 成績に関わる指導の適正化と諸表簿の整備、内規の見直しを行い、学校全体の教育活動を円滑に進める。</li> <li>3 「北高型授業」「北高型発問リスト」について教員間で共通理解を図り、学力向上に結びつく効果的な授業の在り方を探究する。併せて定期考査の実施方法と学習評価の在り方を検討する。</li> </ol>			
具体的な取組状況	前期評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程検討委員会で、3年次に「情報特講」が実施できるようにしたいという提案があり、学年部・数学科と連携して現1・2年の教育課程を変更した。在学中の教育課程変更は異例ではあるが、生徒にとって有益になるのであれば変更すべきという結論に達した。今後もより良い教育課程を検討していきたい。</li> <li>2 校務支援システムでの成績処理に移行した。手探りの状態からではあったが、担当の努力により大きな問題はなく移行できている。まだ年度途中で手探りの状態は続いていくが、支障なく成績処理が進められるようにしていきたい。</li> <li>3 各教室の黒板をみると、本時の目標が示されていることが多く、「北高型授業」への取り組みが進められているように感じている。今後もより良い授業実践ができるよう意識を高められるようにしていきたい。</li> </ol>		総合評価
	後期評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期での教育課程変更を受けて、入学年度ごとの教育課程を作成し、生徒・保護者に提示した。生徒には、来年度のコース・選択科目選択に合わせて説明を行い、保護者には文書で主旨説明を行った。実際の変更は来年度以降となるが、今後もより良い教育課程を検討していきたい。</li> <li>2 校務支援システムによる成績処理への移行は、職員の協力と担当の努力により、支障なく実施できている。年度末の成績処理まで丁寧に検討・実施していきたい。また、第3回定期考査からは「すぐーる」による通知票配信も行われている。担任の負担軽減につながっていると考える。</li> <li>3 今後も「北高型授業」への取り組みを進めていきたい。学習評価については、本校の観点別評価のあり方について検討を進めている。年度内に評価方法を示し、来年度から実施することができるようしていきたい。</li> </ol>		B
今年度の課題	<p>校務支援システムによる成績処理・教科書事務、「すぐーる」による通知票配信、教育課程の変更、多くの変更があり、手探りの1年だった。職員の理解と協力・担当の努力により何とか支障なく進めることができたが、担当に業務が集中することが多く、ルールや流れをきちんと整理できないままになってしまった。</p> <p>また、観点別評価について、なかなか検討に取り掛かれず、実施方法について年度末まで検討することになってしまった。</p>	今後の改善策	<p>生徒の進路志望達成に向けて、教科部会・学年部会の提案、教育課程検討委員会の開催を通して、よりよい教育課程の改善を進めていきたい。</p> <p>校務支援システムの利用について、今年度の取組を踏まえ、ルールや流れを整理していきたい。担当に集中している業務を教務部内に広げ、職員にも協力をお願いしていきたい。</p> <p>観点別評価の方法を定め、実施に向けて準備を進めていきたい。</p>	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの使い勝手の教員評価が気になる。</li> <li>・「北高型授業」の更なる定着と不断のブラッシュアップで生徒の学力向上に繋げてほしい。</li> <li>・教育課程変更は大変な作業だったと思う。ありがたい。今後も生徒の進路志望達成に向けた円滑な教育活動に向けて注力していただくようお願いする。</li> <li>・教育課程の変更や校務支援システムの進化などを受けて、対応が大変だと思いますが、良く頑張っていると思う。</li> <li>・いつも生徒へのご指導ありがたい。敢えてお願いさせてもらうならば、益々難しくなりそうな共通テストへの対応をよろしく願いたい。</li> </ul>		評価	
			A	

## 令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

	分掌名(生徒指導部)	記載者 牧野 太
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自他共に生命を大切にすする心の育成に努める。</li> <li>2 自主・自律の行動と規範意識の向上に努める。</li> <li>3 基本的な生活習慣の確立に努める。</li> <li>4 学習に専念できる諸環境の整備に努める。</li> <li>5 保護者・地域社会・諸機関と良好な関係を構築し、ともに手を取り合い生徒を育む体制作り努める。</li> <li>6 全職員による共通実践のため、各分掌・各学年との密接な連携を図る。</li> </ol>	
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自らが事故を招いたり、事故に巻き込まれないように、責任ある行動を心懸けさせ、規範意識や安全な行動(生命の大切さ等)についてHR・集会等で注意を促す。</li> <li>2 端正な身なり、挨拶の励行、交通ルール・マナーの遵守を心掛けるよう指導するとともに、風紀・交通安全委員会の自主的活動の支援に努める。職員、生徒合同の昇降口指導や交通安全指導を年2回以上実施する。</li> <li>3 登校時、授業時の遅刻を防止し、規律正しい生活を心掛けるよう指導する。</li> <li>4 「学校生活困りごとに関する調査」を年2回以上実施し、生徒の悩みの早期発見に努め、職員全体で対応する。</li> <li>5 保護者や地域の方々からの声を受け止め、生徒の健全育成を援助するよう心掛けるとともに「生徒指導だより」等を発行し、学校の教育方針の啓蒙を図る。</li> </ol>	
具体的な取組状況	<p style="text-align: center;">前期評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微な交通事故の件数は減ったように思われる。しかし、ルール・マナー違反が目立つのは変わらない。警察から自転車の指導警告も数件あり、苦情を伴う自転車運転などもみられた。</li> <li>・安易なSNSの書き込みなど、生徒の悩みや言動について継続的に注意する必要がある。</li> <li>・不審者被害の報告はなし。不審者被害については、時間が経過してからの報告が多く、他の人が被害に遭わないために通報の必要性を指導していく必要がある。</li> <li>・普段から態度、行動について指導されている生徒が複数おり、何かが起こる前の指導の必要性・重要性を再認識した。</li> <li>・朝学習に間に合わない遅刻はほぼ同じ生徒である。学年部との連携を強化して改善を目指す。</li> <li>・地域住民の方々へは、生徒の自転車・歩行、送迎の車で迷惑をかけている面があり、指導の継続が必要である。</li> <li>・昼休みを中心に生徒指導部で校内巡視を定期的に行っている。スマホ利用に関するルール違反が数件見られた。</li> </ul>	総合評価
後期評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体とすれば、北高生は伝統的に、思いやりの心を持った者が多く、「生命を大切に」する心はあると思うが、不用意に相手を傷つける発言をする者がいたり、交通ルール・マナーを守らない者がいる。継続的な指導が必要。</li> <li>・一部の生徒に限られてはいるものの傘の盗難が断続的にあり、更なる規範意識の向上に努める必要がある。</li> <li>・PTA(むつみ会)合同の交通安全指導を行った。今後とも連携を深めていきたいと思う。</li> <li>・クロームブックの利用についてルールを逸脱した面があり、指導の仕方が問われていると考えている。良心に訴える指導が必要である。</li> <li>・人間関係からくるトラブルが数件ある。未然防止、対応等考えていかなければいけないことを痛感した。</li> </ul>	B
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルール・マナーの遵守</li> <li>・いじめ防止</li> <li>・SNSの使い方への指導</li> <li>・各種参加願いの再考 (紙ベースからの移行・利便性の向上)</li> </ul>	<p style="text-align: center;">今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徹底した指導。</li> <li>・学年部との連携強化。</li> <li>・心配な(目立つ)生徒への目配り。</li> <li>・多様な特性をもつ生徒への対応。</li> <li>・被害にあった際の、速やかな申し出。</li> <li>・良心に訴える指導。</li> </ul>
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車に関してはヘルメットの着用率が気になる。</li> <li>・引き続き生徒の心身安全確保に努めるとともに、他者との関わりを通じて社会性を育む活動をしてほしい。</li> <li>・SNS上のいじめなど、外から見えにくいトラブルが増加している。組織的な対応策を構築し、未然に防ぐことができるよう検討を重ねてほしい。</li> <li>・学習面や生命を大切に、北高生の学校生活を良く支えていると思う。</li> <li>・SNSの指導を引き続きお願いする。社会貢献活動に対する情報も発信してもらえると助かる。</li> </ul>	評価  A

令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名( 進路指導部 )	記載者	藤 田 理
重点目標	<p>「主体性」と「考動力」の育成</p> <p>1 主体的に学びに向かう生徒を育むための支援を行う。</p> <p>2 本校の進路指導力の向上を図る。</p> <p>3 職員間の情報共有を図り、全職員で進路指導の実践にあたる体制を確立する。</p>			
具体的な計画	<p>【3学年】</p> <p>(1)授業第一主義を継続し、平日補習等を活用し、受験に対応できる学力を養成する。</p> <p>(2)効果的に進路情報を提供し、生徒が進路目標の達成に向けて主体的に取り組めるように支援する。</p> <p>【2学年】</p> <p>(1)主体的に学習に向かう習慣の定着と学習時間の増加を図る。</p> <p>(2)進路志望に応じた「課題研究」を実施し、生徒に進路実現に向けた具体的な戦略を考えさせる。</p> <p>【1学年】</p> <p>(1)生徒に自己理解を促し、各自のキャリア目標を設定させる。</p> <p>(2)主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。</p>			
具体的な取組状況	前期評価	<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課外補習やハイレベル教養講座を通じて、受験に向けた取組を着実に進め、校外模試等の成績を維持している。</li> <li>生徒の進路実現に向かう主体性が高まってきた。そのために進路通信を発行するなど生徒との情報共有を行い、支援している。</li> </ul> <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路講話の実施や定期的な進路通信の発行を通じて、生徒のキャリア意識の涵養に取り組んだ。</li> <li>CBT(駿台atama+テスト)や確認テストなどの取組を継続して全体の基礎学力の定着を図るとともに、難関大志望者への対策も講じている。</li> </ul> <p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育と学力向上に向けての初期指導を計画通りに進めることができた。その際、進路通信や学年通信を適宜発行して、生徒との情報共有を図った。</li> <li>CBTや確認テストを活用して、生徒が主体的に学習に向かう姿勢を確立できるように支援している。</li> </ul>		総合評価
	後期評価	<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課外補習や個別試験対策講座、エキスパート制による個別指導を通じて、生徒の学力向上を適切に支援し、進路実現の成果を上げることができた。</li> <li>生徒や保護者との個別面談、進路通信の発行を適宜行うことで情報共有をきめ細かく行い、生徒のキャリア実現に向けた取組を十分に支援できた。</li> </ul> <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>系統別ゼミを単位にした課題研究の指導や志望理由書作成の指導、進学講演会の実施を通じて、生徒の主体性を喚起し、そのキャリア意識の確立を支援できた。</li> <li>きめ細かい進路通信の発行と個別面談を通じて、学習や受験への意識を涵養して、確認テストやCBTへの取組を通じて学力の向上を図ることができた。</li> </ul> <p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視聴覚教材を活用し、職業人講話や系統別ゼミの事前指導を実施して生徒が自分の適性と社会との関わりを捉えつつ、主体的な文理選択やキャリア意識の涵養を支援できた。</li> <li>進路通信の発行や進学講演会の実施して、日常の学習と受験との関わりを意識させ、主体性を高めつつ、確認テストやCBTを活用して基礎学力を定着させた。</li> </ul>		A
今年度の課題	<p>課題1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の推進のために、進路指導、教科指導、総探、課題研究の相乗効果を高める指導を工夫する。</li> </ul> <p>課題2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の個別最適化を図るための学習指導や進路指導を工夫する。</li> </ul>	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年部との連携により「あげまきサクセスプラン」(進路指導計画)を改善する。</li> <li>各教科、学年部との連携により習熟度別の課題や講座の実施を検討していく。</li> <li>エキスパート制の運用をさらに工夫していく。</li> </ul>	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア指導の充実を期待する。文理融合政策は、プログラミング、AI活用なども含め、今後理系の比重が増すことを考えられる。</li> <li>成果を評価する。現役OB・OGを活用したキャリア教育を行い、生徒がより早くより強く将来ビジョンを持つ取り組みを行ってほしい。</li> <li>重点目標にある「主体的に学びに向かう生徒の育成」が実現できるよう各学年部を中心に取り組んでいただきたいと思います。</li> <li>授業を拝見したが、生徒たちは生き生きと取り組んでいた。キャリア教育に関して、難関大に進学した先輩たちに手伝ってもらい、難関大進学の特長や意義、勉強方法などを話してもらおう機会を設けてほしい。娘が北高出身で医学博士となり、口腔外科医として大学医学部附属病院に勤務している。北高生のためならいつでも協力させて頂くので、声をかけてほしい。</li> <li>外部の助力を貰いながら、生徒達の希望叶うようご指導を宜しくお願いする。</li> <li>他校では県庁労働委員会からの生徒向けのセミナーを受講させ、社会に飛び立つ際の予備知識を与えているようだ。一考してほしい。</li> </ul>			評価
				A

## 令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

	分掌名(特別活動部)	記載者 伊藤直美
重点目標	1 生徒が主体的に活動を行う生徒会活動 2 部活動の振興	
具体的な計画	1 生徒が主体的に活動を行う生徒会活動 (1) 生徒同士が協議をするきっかけをつくり、生徒による計画・運営が充実することにより、生徒会行事の質的充実を図る。 (2) 年間を見通した活動内容の充実を検討し、委員会活動の質的充実を図る。 2 部活動の振興 (1) 全国大会出場毎年7以上、全国大会入賞5年間で2以上を目標とし、各部の活動の充実と実績の向上を図る。 (2) 各部員の健康管理及び学力保障に向けた環境整備を図る。 (3) 在籍生徒数と部活動設置数の長期的見通しについて検討する。	
具体的な取組状況	前期評価	1 北高祭では生徒会担当を始め新体制の下、生徒主体の企画・運営で行われた。放送委員会も代替わりし、ほぼ0からの運営となったが行事等で活躍している。 2 インターハイには8つの部活動、全国高総文祭には3つの部活動が出場することができた。 第1回部活動検討委員会を行った。学校の規模に合った適正な部活動の数に収めるためには幕を下ろさなければいけない部活動や同好会もあるが前に進めるしかない。後期にはある程度結果を出したい。
	後期評価	弓道部、バレー部、バドミントン部、囲碁部が全国大会に出場。  第1回部活動検討委員会後、全校生徒対象のアンケートを行った。そのアンケート結果を基に第2回部活動検討委員会を行った。今後の動きは文化部統合、同好会募集停止についての時期や条件を生徒会執行部、該当部活動・同好会代表と協議し、その後、臨時生徒総会を開催して決定したい。大きな変化となるので慎重に進めたい。
今年度の課題	進行中の文化部の統合、同好会の募集停止について。  東北大会以上に出場する部活動増加のため遠征費等に掛かるあさひ会費、生徒会費の支出が増加してきた。	今後の改善策
		進行中の文化部の統合、同好会の募集停止について。  部活動の遠征費等の規定の見直し。
関係者評価	・部活動にかかる諸経費の高騰、教諭の負担を考え、統合、募集廃止はやむを得ない。 ・成果を評価する。一方で担当教職員が過大になっていないか懸念がある。 ・学校規模が縮小される中で文化部の統合はやむを得ない状況だが、意欲のある生徒の活動の場を残すことができるよう慎重に検討してほしい。 ・文化部、運動部共に大活躍で素晴らしい。また、北高は秋田県における音楽の中心である。自身も、声楽を北高生に指導して、東京藝大、国立音大、武蔵野音大、秋田大学、山形大学など、多くの生徒さんを送り出すことができた。特に音楽部の東北・全国大会の出場は嬉しい。頑張ってもらいたい。 ・同好会の募集停止について、再考をお願いする。	
		評価
		A

## 令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

	分掌名(研修部)	記載者 佐藤高	
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 組織的な授業改善の充実を図ることで、キャリア教育を推進する。</li> <li>2 研修成果を共有し活用し合うことで、学校力の向上に資する。</li> </ol>		
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個人や教科による教材研究の充実を推進する。</li> <li>2 教科の枠を超えた授業参観・研修を推進する。</li> <li>3 県内の各大学や関係機関との連携を密にする。</li> <li>4 全職員が研修の機会を得られるよう情報提供する。</li> <li>5 紙面や報告会等を通じて研修成果を共有し合い、活用を呼びかける。</li> </ol>		
具体的な取組状況	前期評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業研修については、前期相互授業参観において、他教科の参観を中心に行った。</li> <li>2 生徒対象授業アンケートについては、考える時間を確保した授業、自分の考えを伝えたり表現したりできる授業および見通しをもって学習に取り組める授業についてアンケート項目に含めた。また、教科毎に必要な科目・クラスを抽出してアンケートを採るようにした。</li> <li>3 教育実習生、インターンシップの受け入れを通して、各大学・関係機関との連携を図った。</li> <li>4 研修機会の情報提供については、センターテーブルにPDFで保存するとともに、スクールウェアの連絡・掲示板にリンクを張って提供した。</li> <li>5 授業アンケートの結果をまとめ教科で活用するよう呼びかけた。</li> </ol>	総合評価
	後期評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各教科における研究授業を通し、各教科内および教科間相互の授業研修が進むよう呼びかけた。特に英語科ではAKITAグローバル人材育成事業に伴う研究 授業を2回にわたり行うことができた。</li> <li>2 教職実践インターンシップ、新規学卒者等研修の受け入れなど県内大学との連携を図った。</li> <li>3 研修機会の情報提供については前期同様、共有ドライブを利用した。</li> <li>4 研修成果の共有については、印刷物にせず、分掌の公開フォルダにて閲覧できるようにした。</li> </ol>	B
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互授業参観、研究授業により多くの職員が参加できるようにする必要がある。</li> <li>・ICT機器等についてさらに効果的かつ多数の方に使用していただく必要がある。</li> </ul>	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科主任と連携し、呼びかけを強化する。</li> <li>・ICT機器等の研修機会をさらに紹介し、校内でも設定する。</li> </ul>
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田大学との連携は、教諭の負担が減る方向であれば、どんどん活用してほしいと願っている。</li> <li>・個々のスキルを共有できる取り組みに注力してほしい。</li> <li>・生徒による授業アンケートを重視しながら、学力向上に向けた授業力の向上を目指してほしい。</li> </ul>		評価
			B

令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名 ( 保健・教育相談部 )	記載者 石塚千鶴子	
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の心身の成長を支援する体制を整えて、主体的に心身の健康の保持増進を図る生徒を育成する。</li> <li>2 学校の環境衛生への意識を高め、感染症対策等を主体的に実践して健康の増進を図る生徒を育成する。</li> <li>3 校内の環境美化に努め、生活・学習環境を主体的に整える生徒を育成する。</li> </ol>			
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員間における情報交換を定期的に行い、生徒の心身の状況および校内環境についての課題を共有化してチーム体制による早期の対応に努める。</li> <li>2 保健便りや教育相談便り等を定期的に発行し、心身の健康や環境衛生等について日々考える機会を常時提供する。</li> <li>3 心身の健康の保持増進のために、生徒向け研修会や職員対象の研修会等を実施する。</li> <li>4 日々の清掃など学校生活を通して校内の環境美化を図る意識を醸成する。</li> </ol>			
具体的な取組状況	前期評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心身の状況に関する情報交換を行い、共有化を図ることができている。</li> <li>・保健便りと教育相談便りにて心身の健康増進の向上を図る手立てを講ずることができている。保健便りは、「すぐーる」で配信できた。</li> <li>・1年生と教職員を対象とした救急救命の講習会を実施できた。講義時間の関係で実技までできなかった。次年度の実施のあり方を検討したい。</li> <li>・美化コンクールを開催し、校内環境の整備と美化意識の喚起を図ることができた。</li> </ul>		総合評価
	後期評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期から継続して生徒の心身の状況に関する情報交換を行い、教員間で共有化を図ることができている。</li> <li>・保健便りを発行して、生徒の健康増進の向上に資する情報提供を図ることができた。</li> <li>・10月から12月初旬にかけて、スクールカウンセラーによるソーシャルスキルアップセミナーを開催した。参加した1年生37名(昨年23名)のセミナーへの満足度が非常に高く、次年度以降も継続したい。</li> <li>・専門家、専門機関、学年、家庭との連携の強化と情報共有化を図ることができた。</li> <li>・大清掃時には、学校全体で丁寧な清掃を実施し、校内環境の整備に努めることができた。</li> </ul>		B
今年度の課題	新しい環境や集団に適応できず、体調不良を訴える生徒が増えていることへの対応。	今後の改善策	メンタルヘルスや特別支援体制に関する研修の機会を設ける。	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒の情報共有は、大変よい。セミナーの活用も効果がある。</li> <li>・生徒の心身の状況把握に細心の注意を払い、生徒たちの快活な学校生活を支えてほしい。</li> <li>・高校生活への適応に苦しんでいる生徒もいるようだ。全体指導・個別指導など様々な角度から対応策を講じてほしい。また、一部の職員に負担が偏らないよう指導体制を整えてほしい。</li> <li>・北高生の心と身体の健康に留意し、健やかな学校生活を助けている。</li> <li>・精神的に難しい年頃なので、引き続き生徒の相談に乗って上げてほしい。</li> </ul>			評価
				A

## 令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(情報視聴覚部)	記載者 中山大一郎	
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 データ共有の効率化等により、ネットワークの充実を図る。</li> <li>2 情報機器の導入及び活用を推進させる。</li> <li>3 視聴覚室の運営を円滑に行う。</li> </ol>			
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員間でデータのやり取りを円滑に行うことができるよう、ネットワークを管理する。</li> <li>2 情報・視聴覚機器の保有状況を整理し利用状況を管理する。</li> <li>3 より効果的なICT機器の導入及び整備を進める。</li> <li>4 校務支援システムを効果的に運用できるようにする。</li> </ol>			
具体的な取組状況	前期評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年度途中、タイムサーバ関連でネットワークがうまくいかないことがあったが、NTTと速やかに連絡を取ることで解決に至った。</li> <li>2 生徒の使用するタブレットの故障が多く、予備機が不足して対応に困ることが多くなってきた。</li> <li>3 校務支援システムの運用が各部署で滞りなくいよう、年度当初に行う設定でうまくいかないことがあったが、教務部担当者のおかげで解決にいった。</li> </ol>		総合評価
	後期評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ネットワークに関して年に数回トラブルがあったものの、いずれも数時間で回復することができた。</li> <li>2 本校Webページの暗号化作業を終了した。</li> <li>3 Chromebookの故障が目立つが、管理職の先生方の協力により、故障した機器どうして正常な機器をつくる作業により、10台以上の復元ができた。</li> </ol>		B
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BYODへの円滑な移行のために次年度はしっかりと話し合いをしなければならない。</li> <li>・故障しているChromebookどうしから正常な機器を復元する方法を多くの視聴覚部員で習得しなければならない。</li> </ul>	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BYODについての委員会の充実</li> <li>・故障機器からの復元方法の講習会</li> </ul>	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・故障機器復元など、教諭の負担が一部に集中しがちでないか心配である。</li> <li>・トラブルに対する迅速かつ的確な対応に努め、業務の効率化に寄与されることを期待する。</li> <li>・今年度の課題にあるように、技術的な課題もあり対応が難しいと思うが、全職員の協力を得ながら取り組んでほしい。</li> <li>・日々進化するネットワーク、ICTシステム、機器で、対応が大変と思う。これから益々進化し、AGIIに変わって行くと思う。まるで産業革命のようなことが起こるそうだ。機械の進化に負けないで、制御し有効活用出来る人材を早急に育ててほしい。</li> <li>・機器の更新も計画的に予算を確保いただきながらお願いする。</li> </ul>		評価	
			A	

## 令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(図書部)	記載者 續 文明
重点 目標	1 学習指導・進路指導等で求められる内容に対応した図書館の整備と図書館内外の資料の活用にも努め、生徒の主体的な学習活動を支援する。 2 授業等の学校活動における図書館利用・図書利用の可能性を模索し、読書・学習活動を推進する。		
具 体的 な 計 画	① 各学年・分掌等との連携を図り、図書館運営を円滑に進める。 ② 学校図書館活性化モデル校(教科指導型)として、各教科での図書館利用法の模索を依頼し、実践研究を推し進める。 ③ 生徒会図書委員会の活動と連携し、学校全体の図書館利用を促進する。 ④ 図書館の地域開放の在り方を再考し、地域貢献の形を模索する。		
具 体 的 な 取 組 状 況	前 期 評 価	具体的な計画についての評価 ①各学年との連携 [1年部] 4月当初環境が整わず、各クラスで図書館オリエンテーションの時間に、図書の貸し出しの推奨を徹底できない場合があった。夏季休業前には図書の紹介を課題にし、多数の貸し出しを行った。[2年部] 総合的な探究の時間に、有効な方法で活用するよう連携している。[3年部] 面接・小論文等の受験対策のため、図書館の図書の活用を勧めている。 ②職員に対し、図書館の授業活用に関するアンケートを行い、図書館の利用を依頼している。 ③図書委員会の活動として、図書館便りの発行、書庫の整理、学校祭での企画などを行っている。 ④図書館を利用する授業が多かったため、地域開放デーを設定できなかった月もあった。	
	後 期 評 価	具体的な計画についての評価 ①各学年との連携 [1年部] 12月の冬季休業前の国語の時間に、図書の貸し出しを推奨し、多数の貸し出しを行った。[2年部] 総合的な探究の時間に活用してもらった結果、図書館の図書を利用して課題研究を行った多数の生徒の中で4名の生徒が研究発表会の代表者となった。[3年部] 1月に進路決定者に向けて、図書館オリエンテーションを行った。全学年の12月までの貸し出し数は1,355冊である。 ②前期に行ったアンケートをもとに、図書館の利用を依頼した結果、複数の教科で授業利用があり、年間で総時間約60となる予定である。 ③後期の図書委員会の活動として、図書館報の作成を行うが、昨年度の図書館報も秋田県図書館報コンクールで最優秀賞になっており、今年度も努力したい。 ④HPの蔵書検索を利用して借りに来た方がいた。今後も発信方法を工夫したい。	
今 年 度 の 課 題	①職員側で何も工夫しなければ、図書館をほとんど利用しない学年がある。 ②授業での利用は総合的な探究の時間と国語の時間が多く、他の授業で利用していただくのが難しい状況であった。	今 後 の 改 善 策	①各学年で適切な時期に必要な利用を促す。どのような方策により、利用してもらうかを随時考え、実行していかなければならない。 ②今年度のアンケート結果をもとに、今後も複数の教科で、授業で図書館を利用していただくよう依頼していく。
関 係 者 評 価	・図書館の利用増加の取り組みは、高く評価できる。今後は紙媒体ではない図書館の利用法も課題になると考える。 ・積極的な取り組みを評価します。知の宝庫としての活用に留まらない運用に期待する。 ・図書館の利活用推進に向けて、学年部と連携しての取り組みは素晴らしいと思う。今後も生徒の主体的な学習活動を支援できるよう運営に工夫してほしい。 ・知の宝庫である図書館だが、AIの進化で利用者が減少している。そんな中において、北高は図書部の先生のご尽力で、生徒さん達の利用が多く安心した。 ・より一層の図書館利用の促進をお願いする。		評 価
			B

## 令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名( 1年部 )	記載者 柘植 静子
重点目標	<p>3年間の目標:「主体性」と「考動力」の育成                  1年次の目標:日々の生活や学習、探究活動を通して自己理解を深めるとともに、互いを認め合い、協働する態度を養う。</p>		
具体的な計画	<p>1 時間を意識した規則正しい生活習慣を定着させる。学年独自に皆勤賞を設ける。                  2 授業を中心とした学習習慣を身に付けさせ、基礎学力定着の徹底を図る。                  3 総合的な学習の時間を活用し、自己理解の機会を設け、文理選択、進路選択について考えさせる。                  4 部活動や生徒会活動、学校行事に積極的に取り組むことで、他者を理解し協働する態度を養う。</p>		
具体的な取組状況	前期評価	<p>1 概ね生活面は落ち着いている生徒が多い。皆勤賞候補は70名ほどである。朝の遅刻者は固定化してきている。                  2 基礎的な知識は身に付きつつあるが、家庭学習時間の不足からそれが学力までに至っていない。継続的に学習に取り組ませたい。                  3 文理選択や進路選択のための仕掛け(きっかけ)を生かし方向性を決めることができた生徒が多い。なかには自分事にならず迷っている生徒もいるため、今後の仕掛けも工夫していきたい。                  4 学校行事等を通して他者理解を深め、クラスの団結力も上がってきた。一方で言動の幼い生徒も少なからずおりトラブルもある。継続的な指導が必要である。</p>	総合評価
	後期評価	<p>1 皆勤賞候補は1/20現在55名である。全体的に生活習慣が身に付いてきたところで、行動開始の切替に時間のかかる生徒への声掛けを行った。                  2 課題の提出状況の確認とこまめな声掛けにより、学習への取組を促した。また、小テストなどを活用して基礎基本の定着を図った。                  3 志望理由書の添削課題の活用により、志望の明確化の一助とした。また、来年度の課題研究を前に系統別のゼミに分かれ学習会を開催した。志望分野の予備知識を増やすとともに、共に切磋琢磨する仲間づくりの効果が期待できる。                  4 全体的には生徒同士の理解が進み、ほどよい距離感を保てるようになってきた。一方で対人関係による悩みは尽きず、継続した見守りと支援を必要とする生徒も少なくない。</p>	A
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立に至っておらず、大学入試に向かうまでに必要な学力との格差が大きい。</li> <li>・上位者への意識づけ、指導の機会が持っていない。</li> <li>・対人関係に悩む生徒への対処。</li> </ul>	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な危機感を持たせることと競争心をくすぐることで学年全体の学習に向かう雰囲気高める工夫をする。</li> <li>・上位者向けの模試や講座など、学習の仕掛けづくりを具体的に進める。</li> <li>・継続した見守りと支援をしていき、必要に応じてSCやSSWと連携を図る。</li> </ul>
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面の取り組みは充実している。</li> <li>・学習面だけでなく学校生活面でも苦勞する学年と理解する。将来への目標を定める最も重要な学年でありキャリア教育に注力されたい。</li> <li>・対人関係をはじめ、支援を要する生徒が見られるとのことだが、学年部、各分掌など幅広い指導体制で取り組んでほしい。学習指導・生徒指導とバランスのとれた生徒の育成をお願いする。</li> <li>・北高に入って、学校・教育活動にはまだ慣れなかった1年生を丁寧に指導されている。</li> <li>・早期からの卒業後の進路指導をお願いする。</li> </ul>		評価
			A

令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名( 2年部 )	記載者	高橋 健
重点目標	<p>3年間の目標:「主体性」と「考動力」の育成</p> <p>2年次の目標:規則正しい生活習慣および学習習慣を身に付け、将来の進路目標を具体化させることで、自ら考え行動できる生徒の育成を図る。</p>			
具体的な計画	<p>1 明るく元気に登校し、規律ある生活を送る。挨拶や礼儀などのマナーを身に付け、正しい整容を心がける。</p> <p>2 授業を中心とした学習に取り組み、平日3時間、休日5時間の学習時間を継続させることで、基礎学力の定着を図る。</p> <p>3 部活動や生徒会活動に主体的に取り組み、人間力の向上を図る。ボランティア活動や校外の活動、修学旅行などの行事を通して社会性を身に付けさせる。</p> <p>4 課題研究や大学出張講座などを通して、学問について理解を深め、社会問題について考えることで将来の進路目標を具体化させる。</p>			
具体的な取組状況	前期評価	<p>1 遅刻者は少なく礼儀や整容は特に問題ないが、全体的に挨拶や返事に元気がない。社会人になるための準備として元気な挨拶を心がけたい。</p> <p>2 授業に臨む態度や課題提出は良好であるが、高校2年生としては学習時間が少ない。駿台atama模試は既習内容の定着に活用できている。</p> <p>3 部活動や生徒会活動には意欲的に取り組み、成果を上げることができている。ボランティア活動は生徒によって取り組み方に温度差がある。</p> <p>4 課題研究発表会や大学出張講座等、後期の行事として予定通り実施する。進路講演会なども企画して、進路や受験に対する意識を高めていきたい。</p>		総合評価
	後期評価	<p>1 冬期間は遅刻者、体調不良者が増えたが、全体的には規則正しい学校生活を送ることができた。</p> <p>2 授業に臨む態度や家庭学習状況、課題への取り組み方など個人差が見られる。進路志望と学習に対する意識に大きな隔たりが見られる。</p> <p>3 部活動や生徒会活動、ボランティア活動に意欲的に取り組むことができた。修学旅行では歴史や文化を学ぶとともに、時間やルールを守り、集団行動の在り方を学ぶことができた。</p> <p>4 課題研究発表会や大学出張講座など、予定通り実施することができた。各種進路行事を通して、進路志望を明確にすることができたと思う。</p>		B
今年度の課題	<p>■全体的に学習時間が少なく、課題や小テストへの取り組み状況など個人差が大きい。学年全体、クラス全体で意識を高めていく必要がある。</p> <p>■理系クラス上位者の成績をもう少し伸ばすことができれば良かった。特に、難関大志望者の自主性を育てる仕掛けがあれば良かった。</p> <p>■学校生活や学習に対して不安や悩みを抱える生徒が増えてきた。</p>	今後の改善策	<p>■直近の模擬試験やスタディーサポートの結果を活用して面談等を行い、3年次の学習時間を大幅に増やしていきたい。</p> <p>■来年度も上位者対策講座を継続し、文系理系ともに難関大志望者の意識向上と実力アップを図りたい。</p> <p>■担任、副担任、学年主任で面談を行い、進路や学校生活に対してモチベーションを維持できるようにアドバイスを行う。</p>	
関係者評価	<p>・部活動などでも活躍できる学年として、心身ともに楽しく充実できる指導を期待している。</p> <p>・学習意欲をより向上させる大切な学年と理解する。社会性を身に着ける取り組みや人間力向上を目指した活動を評価する。</p> <p>・各大学ともに年内入試枠が広がり、希望する生徒が増えている。目標を早めに設定し準備に時間をかけることが大切だと考える。適切な助言をお願いする。</p> <p>・2年生は授業の選択などもあり、早く進路を決めなければいけないので、生徒たちも悩み多いと思う。そういう中で、先生方は良く寄り添って指導されていると思う。</p> <p>・外部からの協力を得ながら、現実的な社会についての学習もあればいいかと思う。</p>			評価
				A

令和7年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(3年部)	記載者	工藤正隆
重点目標	3年間の目標:「主体性」と「考動力」の育成 3年次の目標:自己の進路目標実現に向けて、主体的に学び続け、学力と精神力を向上させ、社会性を持った生徒を育成する。			
具体的な計画	1 「ハイレベル教養講座」や「夢ナビ」などを通じ、大学で何を学び、学んだことを社会でどう活用するかを考えさせる。 2 部活動、校外活動、係、委員会活動、行事に積極的に取り組ませ、主体性と社会性の涵養に資する。 3 日々の学習を充実させるため、規則正しい生活習慣の充実を図る。特に遅刻防止のため、朝学習の時間に2階フロアで登校指導する。 4 生徒の適切な進路選択の一助とするため、クラス担任以外(主に学年主任)も面談を実施し、アドバイスをする。			
具体的な取組状況	前期評価	1 ハイレベル教養講座を2回、夢ナビ視聴を4回、その他、東北大学及び秋田大学入試説明会を実施した。大学での研究の動機付けと志望校の決定に役立てられたと思う。 2 あらゆる活動で、リーダーシップを発揮して、主体的に取り組んでいた。文化祭での振る舞いには、学校外部の人々から、好評価を得た。主体性と社会性は身に付きつつあると思われる。 3 ほぼ毎日昇降口で登校指導した。遅刻防止に効果があったかは不明だが、遅刻しがちな生徒と毎朝挨拶を交わし、様子を観察することはできた。 4 全生徒学年主任面談を実施した。また、各クラス毎に、担任・副担任との面接も実施されている。生徒の進路選択の一助になったとともに、学年部職員の深い生徒理解につながった。		総合評価
	後期評価	1 前期までの取組や面談の成果により、大学のブランドや偏差値に左右されず、自ら研究したい学問分野を基準に志望校を設定する生徒が増加した。主体的な進路選択が進んだ点は成果といえる。 2 行事が限られていたため、新たに主体性を発揮する場面は多くなかったが前期までの経験を基に、各自が進路決定に向けて主体的に準備できた。 3 登校指導は年間を通してほぼ毎日実施したが、遅刻者数の顕著な減少には至らなかった。一方で、生活習慣への継続的な働きかけにより、ここ数年と比較して卒業に至る生徒数は増加する見込みである。 4 面談を通して、偏差値や大学名だけにとらわれず、自身の興味・関心を重視して進路を決定する生徒が増えた。個別面談の積み重ねが、主体的な進路選択につながったと考えられる。		B
今年度の課題	共通テストの結果が全体として振るわず、成績上位層において学力の伸び幅が十分ではなかった。また、難関大にチャレンジする成績上位者が見られなかった点は、指導や意識づけの面で課題が残った。生活面では遅刻が多く、規則正しい生活習慣の定着に成果を上げられなかったほか、休学者を1名出したことについても、早期支援体制の再検討が必要である。さらに、進路が決定した生徒の学校生活について、指導が不十分であった。	今後の改善策	共通テストを見据えた学習指導については、早期から到達目標を明確にした指導を行う。特に成績上位層に対しては、高い目標設定と個別最適な支援により、学力の伸長と難関大学への挑戦を促す。生活面では、登校指導の成果を生かし、家庭との連携を強化することで、規則正しい生活習慣の定着を図る。また、心身の不調を抱える生徒への早期対応を進め、早期に進路が決定した生徒についても、学校生活の意義を意識した指導を行う。	
関係者評価	・生徒との面談は、進路のミスマッチを防ぐためにも、大変ですが重要だと思う。 ・進路決定をする生徒、その支援をする教職員ともに重要な負担の大きい学年である。厳しくも優しく生徒に寄り添ってほしい。 ・受験指導に慰労する。生徒の努力が実を結ぶことを祈る。 ・3年生は大学進学が目前にあり、先生方も生徒さん達も辛いことも多いと思う。国立大、私立大ともに、毎年進学率が伸びていて素晴らしい取り組みをしている。難関大への勉強方法など、卒業生である娘もお役に立てるので、声をかけてほしい。 ・卒業年度は激務でしょうから、外部の協力も得られてもよろしいかと思う。			評価
				A